



S U B A R UグループのCSR

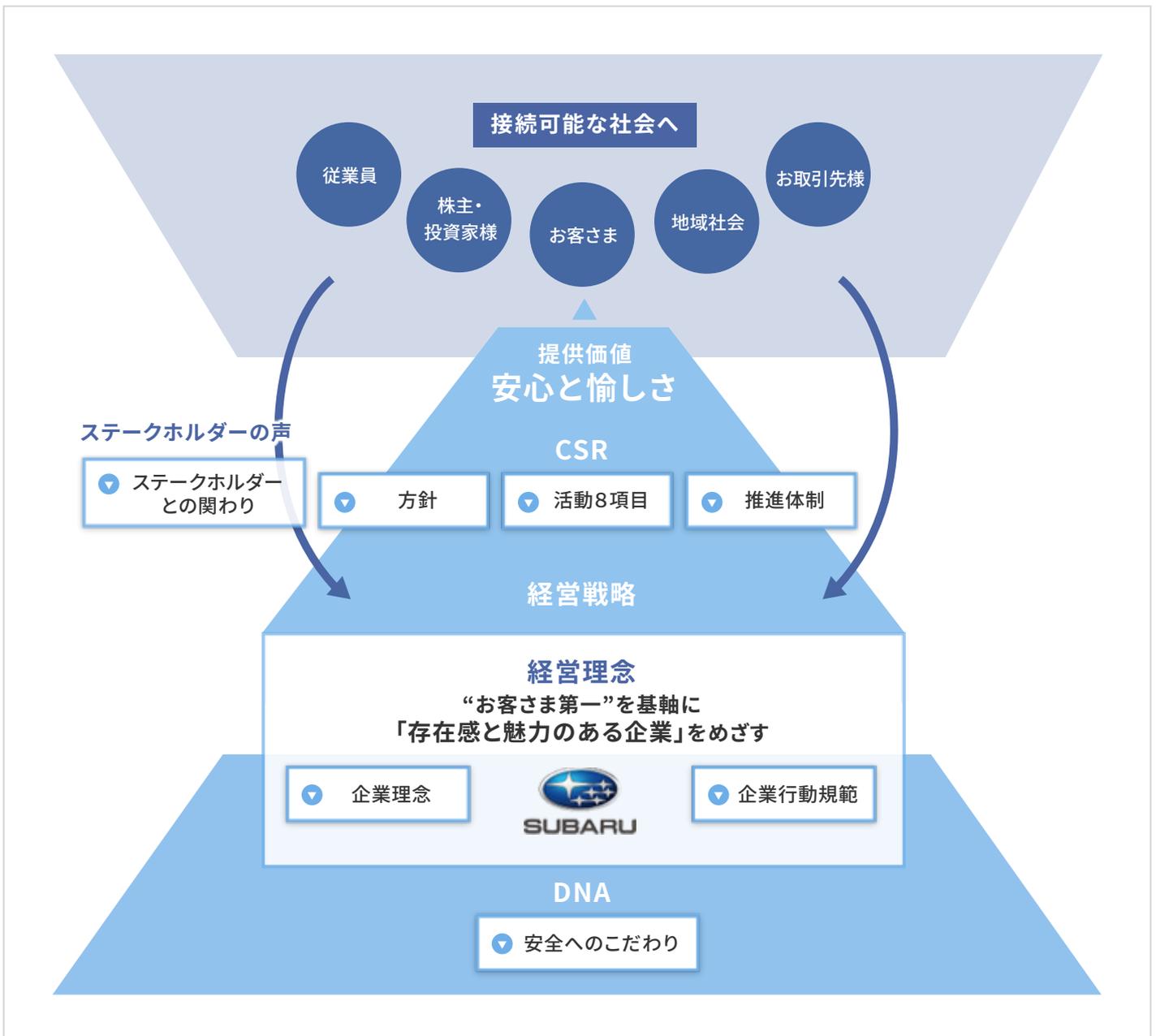
S U B A R Uグループは、本業を通して、より良い社会、環境づくりに貢献し、持続可能な社会の実現を目指してCSR活動に取り組んでいます。

CSRの考え方

地球温暖化や人権問題、少子高齢化など、国内外にはさまざまな社会課題が山積しており、それらの解決へ向けた企業への期待はますます高まっています。S U B A R Uグループの事業領域においても、環境負荷の削減や交通事故防止、交通渋滞の緩和など、多様なテーマへの取り組みが求められています。

そのため私たちは、安全・環境性能および品質に優れた商品の開発・生産・販売はもちろん、企業市民として社会からの要請に応えるためのCSR活動に取り組み、社会課題に誠実に向き合っています。社会環境が刻々と変わりゆくなか、私たちが事業を通じてどのように社会に貢献していけるか、あるいはステークホルダーの期待・要請にどう応えていくかを見直した結果、これまでCSR活動項目として掲げていた8項目があらゆる事業活動の根幹であることを再認識しました。

CSR活動8項目をベースとした事業活動を徹底することで、「存在感と魅力ある企業」として、これからもお客さまをはじめとするすべてのステークホルダーに「安心とゆしさ」を提供するとともに、S U B A R Uグループの企業価値向上を追求し、より豊かで持続可能な社会づくりに貢献していきます。



企業理念

1. 私たちは常に先進の技術の創造に努め、お客様に喜ばれる高品質で個性のある商品を提供します。
2. 私たちは常に人・社会・環境の調和を目指し、豊かな社会づくりに貢献します。
3. 私たちは常に未来をみつめ国際的な視野に立ち、進取の気性に富んだ活力ある企業を目指します。

企業行動規範

当社は企業理念に基づいた事業活動の実践に向けて、コンプライアンスを順守し、社会的責任を果たしながら行動していくための企業行動規範を定めています。従業員一人ひとりがお互いを尊重しながら、この企業行動規範を尊び同じ価値観で行動することを通じて、豊かな社会づくりに貢献し、すべてのステークホルダーに信頼される企業となるべく努力を続けていきます。

企業行動規範

1. 私たちは、環境と安全に十分配慮して行動するとともに、創造的な商品とサービスを開発、提供します。
2. 私たちは、一人ひとりの人権と個性を尊重します。
3. 私たちは、社会との調和を図り、豊かな社会づくりに貢献します。
4. 私たちは、社会的規範を順守し、公明かつ公正に行動します。
5. 私たちは、国際的な視野に立ち、国際社会との調和を図るよう努めます。

CSR方針

お客さまに喜んでいただけるモノづくり企業として、企業組織レベルの取り組み要件である「企業行動規範や重要項目の尊重を主体とした守りのCSR」と「企業市民として事業活動を通じて社会課題の解決に寄与することを主体とした攻めのCSR」をより明確にするため、CSRにかかわる委員会の承認を経てCSR方針を制定しています。

当社のCSR活動は、さまざまなステークホルダーとのかかわりに重点を置くとともに、グローバルな事業活動を通じて社会の持続的発展に貢献することであり、SUBARUグループの使命と考えています。

CSR方針（2009年6月改訂）

1. 私たちは、企業行動規範に基づき、法令、人権、国際行動規範、ステークホルダーの権利およびモラルを尊重します。
2. 私たちは、企業市民として、現代社会が抱える世の中の社会問題の改善に向けて取り組みます。

CSR活動8項目

当社は従業員一人ひとりが業務を通じて組織的に推進することができるようにCSR活動8項目を掲げています。また、社会からの要請に確実に対応できるように、項目ごとに詳細な活動を定義し、CSR活動の具現化を図っています。



お客さま・商品

社会的に有用で安全な商品・サービスを提供し、お客さまの満足と信頼を得る。



コンプライアンス

法律やモラルを守り、公正・透明・自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、個人情報・お客さま情報をはじめとする各種情報の保護・管理を徹底する。



コーポレートガバナンス

経営トップは社内およびグループ企業に対しCSRの徹底を図るとともに、緊急事態が発生した場合は、自らが問題解決にあたる。



環境

環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件として、主体的に活動する。



社会貢献

「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。



情報公開

株主様をはじめ広くコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。



調達

適正な調達を行うとともに、お取引先様におけるCSRの推進を促す。



従業員

従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。

※CSR活動の「考え方」は企業行動憲章（社団法人 日本経済団体連合会）を参考にしています。

CSR推進体制

組織体制



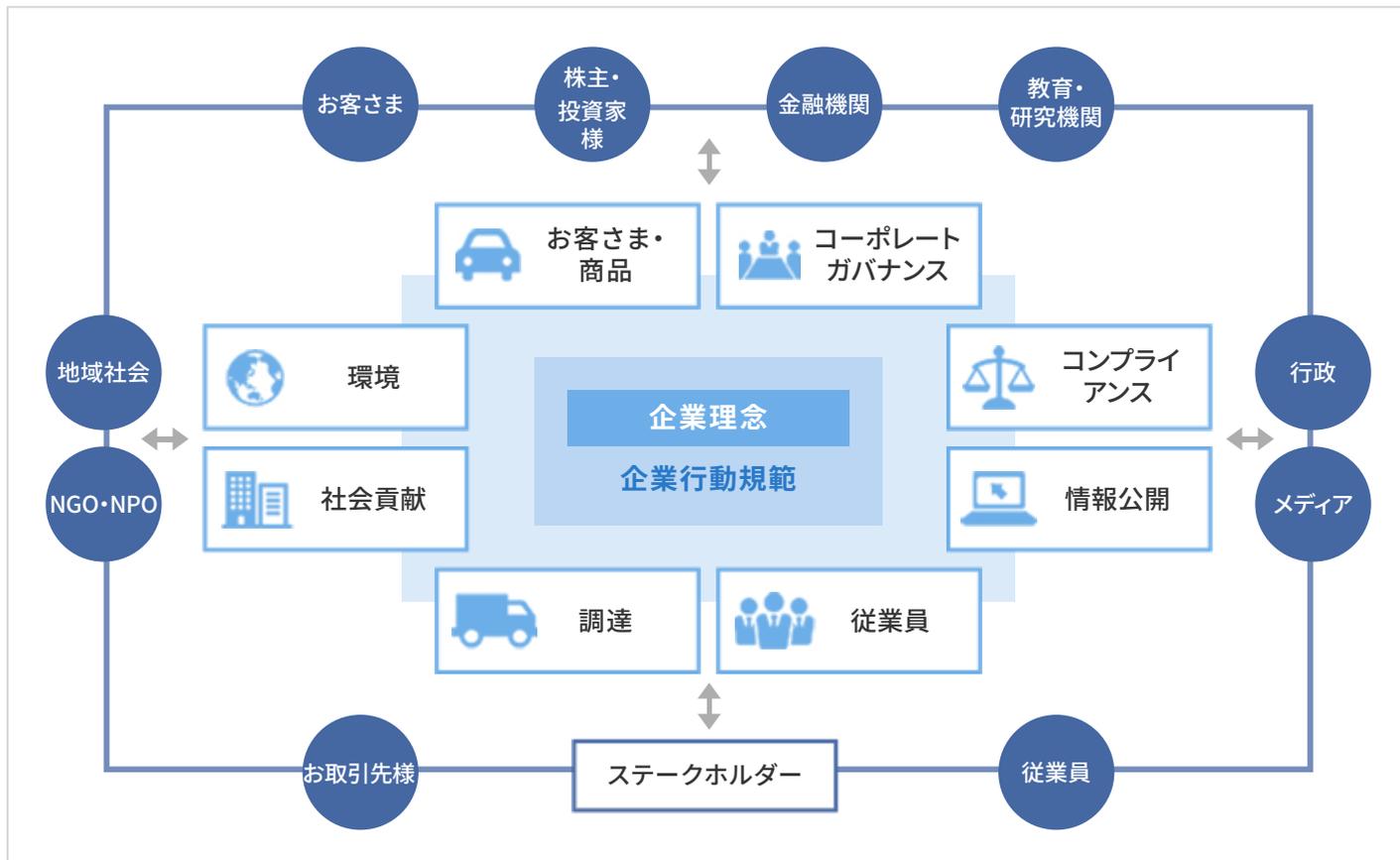
当社はこれまでCSR・環境委員会を設置してCSR活動を推進してきましたが、2010年度より、当社のCSR活動8項目をより明確にして組織的に推進するため、経営トップを委員長とするCSR委員会を設置しました。さらに今年度は、CSRや環境分野について、社会の要請が強まるとともに、経営上の重要性も増していることから、CSR環境部を新設しました。

CSR委員会は、CSR活動8項目にかかわる専門の委員会および部門で構成され、全社的な管理のもと、それぞれの部署が主体となり活動に取り組んでいます。また、CSR委員会には北米CSR委員会を加えて、グループ企業によるグローバルなCSR活動を推進しています。

ステークホルダーの皆様とのかかわり

2011年度に発表した中期経営計画におけるCSRの目標である「社会的課題の解決に寄与する商品・サービスを提供する企業」、「さまざまなステークホルダーとのかかわりを大切にする企業」は、長期ビジョンである「存在感と魅力ある企業」を実現するための必要不可欠な基本事項です。今後ともステークホルダーの皆様から信頼される企業を目指して、継続的に社会発展へ貢献するとともに、企業価値の向上を図っていきます。

S U B A R Uのステークホルダーとの関係



S U B A R Uグループのステークホルダーとコミュニケーション方法

ステークホルダー	コミュニケーション方法
お客さま	S U B A R Uお客様相談センターの設置、満足度調査の実施、イベントの開催。
株主・投資家様	株主総会開催（年1回）、報告書発行、WEBでの各種情報開示。
金融機関	WEBでの各種情報開示。決算時の説明、月次意見交換。
教育・研究機関	職場体験実施、小・中学校へ出前授業実施、工場見学会開催（年間約9万人来場）。
行政	経済団体、業界団体の会議体への参加、地域自治体との交流・意見交換。
メディア	マスコミ・アナリスト向け決算説明会（年4回）、WEBでの各種情報開示。
従業員	労使協議会の開催。ストレスチェック実施。自己申告実施。階層、職能別プログラムによる教育研修。
お取引先様	調達方針説明会開催、定期的な情報交換、技術や品質等の貢献度大のお取引先様の表彰。
NGO・NPO	調査・アンケートへの回答。理念の賛同を通して寄付や地域・社会貢献活動の実施。
地域社会	安全教室や子供向けサイトによる交通安全啓発。従業員による清掃活動、地域住民との交流会開催。

「安全」というDNA

航空機事業をルーツに持つSUBARUグループは、クルマの最も重要な基本性能は「安全」にあると考え、半世紀以上も前の「スバル360」の時代から現在に至るまで、“ALL-AROUND SAFETY”の思想のもとに安全性能を最優先したクルマづくりを続けてきました。

SINCE 1917

パイロットを安全に

航空機開発から継承される 「安全」というDNA。

SUBARUの安全開発の根底には、航空機開発のDNAが息づいています。万が一墜落したら命に関わる航空機の開発においては、あらゆる非常事態を想定して設計する必要があり、基本構造の中に危険な状況に陥らないための工夫や対策が施されています。また、パイロットが全方位を直接見渡すことのできる良好な視界の確保も小型航空機に不可欠の安全性能の一つです。こうした安全思想は、クルマを作るようになってからも不変であり、「スバル360」の時代から、SUBARUのクルマはいずれも直接視界の確保をはじめとする安全性能を重視して開発されてきました。

SINCE 1960

ドライバーを安全に



スバル360

時代に先駆けて

「全方位安全」の思想に基づく衝突安全ボディを開発。

1958年に発売され、高度成長期のクルマの普及拡大に重要な役割を果たした「スバル360」。この時代から、SUBARUは、あらゆる方向からの衝突に対して効果的に衝撃を吸収し、高い強度を持つキャビンで乗員を守る「全方位安全」の思想のもと、衝突安全ボディの開発に取り組んできました。

当時は「安全」がまだクルマの価値として重要視されておらず、衝突実験用のダミー人形もありませんでしたが、SUBARUの開発陣は、クルマのボディ構造や人体への影響について独自に研究を進め、試行錯誤しながら時代の一步先を行く優れた衝突安全性を追求してきたのです。

「水平対向エンジン」「AWD」、 走行安全性を高める独自技術を開発。

走る・曲がる・止まるという基本性能は、クルマの構造によって変わってきます。とりわけ大きな影響を及ぼすのが重心の位置と駆動方式です。重心が低いほどコーナーを安定して曲がることができ、4輪すべてにエンジンの力を伝える駆動方式の方が常に安定した走行性能が得られます。こうした視点のもと、SUBARUでは1966年に「水平対向エンジン」を縦置きにしたFF車「スバル1000」を、1972年には4輪駆動車「レオーネ4WD」を発売。以来、これらの独自技術に一層磨きをかけながら、安全で安定した走行性能を追求し続けています。



フラッグシップ「レガシィ」が登場。 運転支援システムの開発に着手。

1989年に発売されたフラッグシップモデル「レガシィ」は、同年1月、10万キロ連続走行の世界最速記録を更新するなど、安定した走行性能と耐久性を実証しました。また、この頃、ステレオカメラを駆使した運転支援システムの開発をスタートさせ、1999年にEyeSightの前身となる「ADA」を商品化しました。

SUBARU「EyeSight」を搭載するインプレッサ/XV、レガシィ、フォレスター、レヴォーグ/WRX S4が2016年度予防安全性能アセスメントで最高ランクを獲得。

2008年、ステレオカメラで常に前方を監視し、警報やプリクラッシュブレーキによって被害低減を図る「EyeSight」を商品化しました。さらに2014年には、一層の高性能・高機能化を実現した「EyeSight ver.3」を発売し、この「EyeSight ver.3」を搭載したインプレッサ/XV、レガシィ、フォレスター、レヴォーグ/WRX S4が、予防安全性能試験で最高評価を獲得しています。





SUBARUが見据えるこれからの「安全」

SUBARUでは、これからも「渋滞時の自動追従」や「運転負荷の軽減」、「運転支援」などの技術開発テーマに取り組み、「EyeSight」をさらに進化させていきます。そして“ALL-AROUND SAFETY”の思想のもとに、あらゆる視点から安全を追求し、誰もが安心してハンドルを握れるクルマ社会の実現に貢献していきます。

2016年より導入を開始した新プラットフォーム“スバルグローバルプラットフォーム”は、「車体・シャーシの剛性向上」に加え、「フレーム構造の最適化」「荷重伝達経路の多重化」「高強度材の採用拡大」などによって車体強度を飛躍的に高め、現行車に比べて衝突時のエネルギー吸収効率を約40%向上させました。

また、今後10年を見越し、将来のよりシビアな衝突にも効率的に対応できるように、一層の高強度材の採用などによって、更なる性能向上を見込める設計に取り組んでいます。

SDGsへの取り組み

SDGs (Sustainable Development Goals) とは、2030年に向け、持続可能な未来を実現するために、国連が掲げた17の目標と169の項目からなる開発目標です。

近年、企業に対して、さまざまな地球規模の課題に対応する要請が高まっており、当社としてもそれに応える重要性を認識しています。SUBARUグループは事業活動を通じて持続可能な社会を実現するために、SDGsに対してさまざまな形で貢献していきます。

> [トップメッセージ](#)

